



TEC

取扱説明書

テック ラベルプリンタ

BA420T-TS12-S



■このたびは本機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
■お使いになる前に「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ず読んで、正しくお使いください。
■お読みになったあとは本機のそばなど、いつも手元においてお使いください。

安全上のご注意(安全にお使いいただくために)

お買いあげいただきました製品(本機)および取扱説明書には、お使いになる方や他の人々への危害と財産の損害を未然に防ぎ、本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

■表示の意味

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(※2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(※3)のみが発生が想定される内容を示しています。

- ※1: 重傷とは失明や、けが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
※2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
※3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■図記号の例

- 注意: △は、注意(警告を含む)を促す事項を示しています。
禁止: ⊘は、してはいけない行為(禁止事項)を示しています。
分解禁止: 禁止
プラグを抜く: 禁止

警告

交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の恐れがあります。



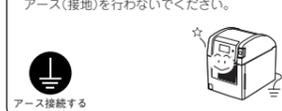
電源コードは本体付属品を使用すること
付属品以外の電源コードを使用すると、火災の恐れがあります。また、本機以外の機器に付属の電源コードを使用しないでください。



タコ足配線や延長コードを使用した配線はしないこと
電源容量を超えると、火災・感電の恐れがあります。



必ずアース(接地)すること
万一漏電した場合、火災・感電の恐れがあります。ただし、ガス管、水道管、蛇口、避雷針などにはアース(接地)を行わないでください。



電源コードを無理に曲げたり、傷つけたり、引っばったり、重い物を乗せたり、加熱したりしないこと
電源コードを傷つけると、火災・感電の恐れがあります。万一、電源コードを傷つけたときは、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。



濡れた手で本機を操作したり、電源プラグを抜き差ししないこと
濡れた手で操作すると、感電の恐れがあります。



分解や改造、ご自身での修理はしないこと
火災・感電の恐れがあります。点検や修理については、お買い上げの販売店にご連絡ください。

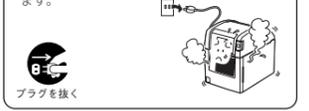


警告

本機の上に液体の入った容器やアクセサリーなどの金属類を置かないこと
こぼれて中に入ると、火災・感電の恐れがあります。



万一、煙が出たり変な臭いがしたときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に連絡すること
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



本機の内部にクリップなどの金属類、液体、燃えやすい物などを落としたり、差し込んだりしないこと
配線がショートし、火災・感電の恐れがあります。



万一、異物(金属片・液体)が本機に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に連絡すること
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



本機を落としたり、本機に強い衝撃を与えないこと
カバーなどが破損し、火災・感電の恐れがあります。



万一、本機を落としたり、カバーなどを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に連絡すること
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。



水がかかる場所で使用したり、水に濡らさないこと
火災・感電の恐れがあります。

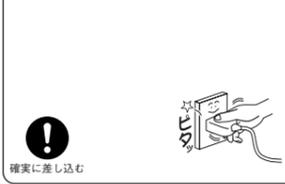


製品の周辺で、可燃性のスプレーなどは使用しないこと
スプレーガスなどが製品内部の電気部品などに接触すると、爆発および火災の原因になります。

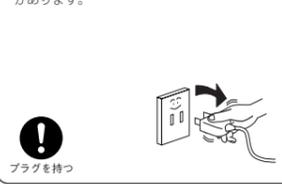


注意

電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込むこと
確実に差し込んでいないと、火災・感電の原因となることがあります。



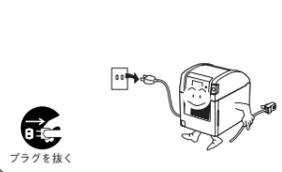
電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと
電源コードを引っばると、中の芯線が切れたり露出したりして、火災・感電の原因となることがあります。



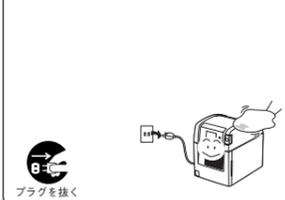
電源プラグは年1回以上コンセントから抜き、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃すること
ほこりがたまるとう、火災の原因となることがあります。



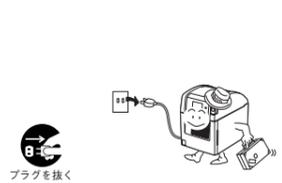
移動するときは、電源コードや他の接続コードを抜くこと
接続したまま移動するとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜くこと
感電の原因となることがあります。



長期間使用しないときは安全のため、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜くこと
火災の原因となることがあります。



注意

湿気やほこりの多い場所、直射日光の当たる暑い場所に置かないこと
内部の温度が上がったり、絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となることがあります。



ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所に置かないこと
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



調理台や加湿器、熱器具のそばなど、油煙や湯気、熱が当たる場所に置かないこと
絶縁が悪くなったり、カバーや電源コードの被膜が溶け、火災・感電の原因となることがあります。



本機をキャスター付きの台に設置したときは、必ずキャスター止めをすることがあります。



本機の上に重い物を置かないこと
置いた物がバランスを崩して倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



本機を子供に使わせたり、幼児の手の届くところに置かないこと
感電・けがの原因となることがあります。



冷気が直接当たる場所に本機を置かないこと
露がつき、火災・感電の原因となることがあります。



注意

本機を移動するときは、必ず2人以上で行うこと
1人で移動しようとするとう、けがの原因となることがあります。



プリンタのヘッド部および用紙搬送部周辺は、高温になっている場合があるので手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。



用紙やリボンなどの消耗品を交換するときは、プリンタのギアなどに髪の毛やスカーフ、ネクタイを巻き込まないこと
けがの原因となることがあります。



左右のトップカバー固定フックに手などをぶつけない
けがの原因となることがあります。



取扱説明書で指定する箇所以外のカバーの開閉、点検、清掃、消耗品の交換などはしないこと
感電・けがの原因となることがあります。



シンナーやベンジン、可燃性ガスを使用したクリーナーで本機を清掃しないこと
火災の原因となることがあります。



トップカバーやリボンカバーは後側へ倒すように全開にすること
中途半端な状態にしておくと勝手に閉まり、けがの原因となることがあります。



カッター部には手を触れないこと
けがの原因となることがあります。(別売のカッターモジュールを装着時)



お願い

本機を正しくお使いいただくために、次のことを守ってください。守らないと、故障・誤動作・破損の原因となります。

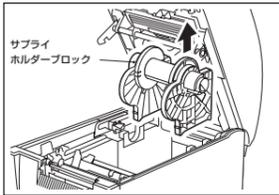
Table with 3 columns: Request/Warning text, Icon, and Action/Result. Includes items like 'Do not use near high temperature changes', 'Do not touch printer head', 'Do not use flammable sprays', etc.

重要なお知らせ

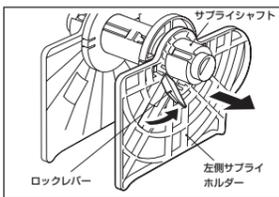
- 本機をお使いになるときは、必ず本書に従ってください。本書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関しては、当社は一切の責任を負いません。
- 製品本来の使用目的以外に使用して生じた損害に関しては、当社は一切の責任を負いません。
- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しております。万一、ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。
- 本機(ソフトウェア含む)は日本国内仕様であり、外国の規格などには適合しておりません。本機を日本国外で使用された場合、当社は責任を負いかねます。また、当社は本機に関する日本国外での保守サービス、および技術サポートなどは行っておりません。
- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 本書に記載している会社名、商品名は、各社の登録商標または商標になっている場合があります。
- Bluetoothは、Bluetooth SIG Inc.の商標で、当社はライセンスに基づき使用しています。
- Androidは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- 「Made for iPhone」「Made for iPad」とは、それぞれiPhoneまたはiPad専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとテヘロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
- iPadおよびiPhoneは、米国と他国で登録されたApple Inc.の商標です。iPad AirおよびiPad miniは、Apple Inc.の商標です。iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- iOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。iPhone確認機種
 - ・ iPhone X
 - ・ iPhone 8iPad確認機種
 - ・ iPad mini 4動作確認OS
 - ・ iOS 11, iOS 10, iOS9

9

- 2 サプライホルダーブロックを取り出します。



- 3 左側サプライホルダーのロックレバーを解除し、サプライシャフトから左側サプライホルダーを取り外します。



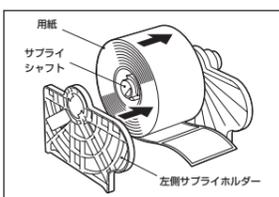
補足

- 右側サプライホルダーは、サプライシャフトから取り外すことができません。

補足

- 紙管の内径が38、40、または42mmの用紙を使用するときは、左右のサプライホルダーからスぺーサーを取り外してください。スぺーサーはサプライホルダー外側の爪を内側に押すと外れます。取り外したスぺーサーは、大切に保管してください。
- 紙管の内径が76.2mm(標準)の用紙を使用するときは、スぺーサーを取り外す必要はありません。

- 4 用紙をサプライシャフトに通し、左側サプライホルダーをサプライシャフトにセットします。



お願い

- 用紙の巻き方向に注意してセットしてください。逆にセットすると印字されません。
- 用紙の先端は、ハサミでまっすぐに切りそろえてください。ラベルの場合は、ラベルとラベルの台紙部を切りそろえてください。

13

公的規格等について

無線機器(テレビ・ラジオ)の近くでは使用しないでください

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

高調波電流規格 JIS C61000-3-2 適合

本機はRoHS指令(2011/65/EU及び2015/863)の特定有害物質使用制限に対応しています。

無線機器に対する使用上のご注意

本機には、無線機能が装備されています。以下の注意事項は、本機の無線機能に対してのみ適用されます。

使用可能地域

本製品は無線装置であり、使用できる国・地域は日本国内に限定されます。日本以外の国・地域で使用するとその国・地域の法律により罰せられることがあります。

使用時の注意事項

本製品は、電波法で定められた無線局の無線設備として、技術基準適合認証を受けています。したがって、日本国内のみの使用目的において、無線局の免許は必要ありません。ただし、本製品を分解・改造すること、証明表示をはがしたりすると、法律により罰せられることがあります。

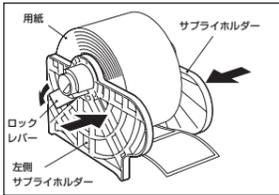
- **航空機内や病院などの使用を禁止された場所では使用しない**
禁止場所が不明な場合、航空会社や医療機関に確認の上、指示に従ってください。誤って使用すると、運行装置や医療機器などに影響を与え、事故の原因となります。
- **挿込み型心臓ペースメーカーおよび挿込み型除細動器への影響**
本製品は携帯電話などと比べて非常に小さい電力を使用しており、心臓ペースメーカーや除細動器への干渉の可能性は非常に低いと考えられます。万一、本製品の使用に際して、心臓ペースメーカーおよび除細動器への影響が生じた可能性がある場合、直ちに使用を中止し、医師にご連絡ください。
- **分解・改造・修理をしない**
けがの原因となります。分解・改造は電波法違反にもなります。修理は最寄りのサービスステーションへご依頼ください。

10

- 5 左右のサプライホルダーで用紙をしっかり挟み込み、ロックレバーを倒して左側サプライホルダーを固定します。左右のサプライホルダーで挟み込むと、用紙は自動的にサプライシャフトの中央にセットされます。

お願い

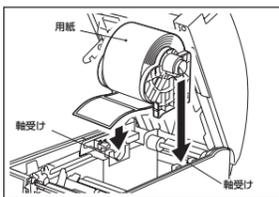
- 両方のスぺーサーが、紙管にしっかりとハマっていることを確認してください。蛇行や印字不良の原因となります。



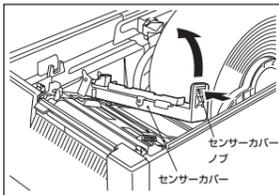
- 6 用紙をセットしたサプライホルダーブロックを、用紙収納部の軸受けに乗せます。

お願い

- 左右を間違えないよう注意してください。
- 幅の広い用紙をセットしたときは、用紙の上部を両手で持って軸受けに乗せてください。指を挟む原因となります。



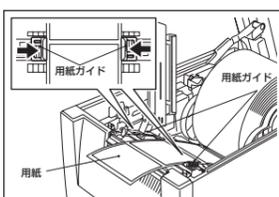
- 7 センサーカバーノブをつまみ、左に押しながら引き上げてセンサーカバーを左側に全開にします。



- 8 用紙の先端が用紙発行口より少し出る位置まで用紙を引き出し、左右の用紙ガイドを用紙の幅にぴったり合わせます。

補足

- 今まで使用していた用紙と同じ幅の用紙をセットしたとき、用紙ガイドを動かす必要はありません。



11

● 電波環境の調査を行うこと

本機を使用する場合は必ず電波環境調査を行い、運用に支障がないことをご確認ください。電波環境調査については、お買い上げの販売店へご相談ください。

機能について

本製品は、電波を利用して通信を行います。したがって、設置場所、設置方向、使用環境、通信距離などにより通信性能が低下したり、通信障害が発生したり、近くの機器に影響を与えたりすることがあります。

- **電子レンジのそばで使用しないこと**
電子レンジの電波の影響で、通信性能の低下や通信エラーが発生することがあります。

- **金属製の机や台の上、金属物のそばで使用しないこと**
通信性能低下の原因となります。

2.4GHz帯域使用製品について

本製品の使用周波数帯域では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

1. **本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局または特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。**
2. **万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用周波数を変更するか、電波の放射を停止した上、最寄りのサービスステーションへご連絡いただき、混信回避のための処置等(例えば、パーテーションの設置など)についてご相談ください。**
3. **その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、最寄りのサービスステーションへお問い合わせください。**

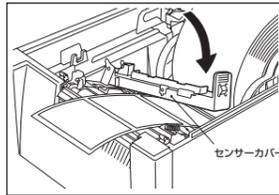
5GHz帯域使用製品について

5GHz帯の電波を使用して屋外で通信しないでください。5GHz帯の無線設備を屋外で使用する場合は法律により禁止されています。

屋外で本機の無線LANを使用する場合は、5GHz帯を使用せずに2.4GHz帯をご使用ください。

9

- 9 センサーカバーを静かに下ろし、「カチッ」と音がするまで押して確実に閉めます。

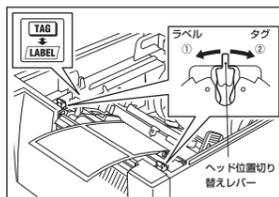


補足

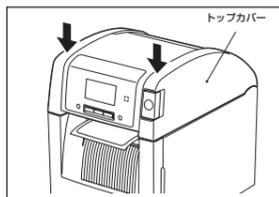
【ヘッド位置切り替えレバーについて】
● セットした用紙の厚さに応じ、左右のヘッド位置切り替えレバーで印字ヘッドの押し圧を切り替えます。

レバー切替方向	用紙の種類または厚さ	備考
LABEL	ラベル紙または150μm未満の薄い用紙	本機の前方に倒す。 (①方向)
TAG	タグ紙または150μm以上の厚い用紙	本機の後方に倒す。 (②方向)

- 左右のヘッド位置切り替えレバーは、必ず同じ方向にセットしてください。



- 10 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を両手で「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



- 11 [FEED]を押して10～20cm程紙送りし、正しく紙送りすることを確認します。

お願い

- 本機を長期間使用しない場合は、トップカバーを開放してください。トップカバーを長期間閉じたままにしておくと、ローラー部に挟まれた箇所の用紙が変形して、次回発行時に印字不良の原因となることがあります。

用紙の取り付け方

ここでは、本機に用紙を取り付ける手順について説明します。本機ではラベルとタグを使用することができます。用紙は当社認定の純正品をご使用ください。用紙のご用命および用紙の作成につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

注意

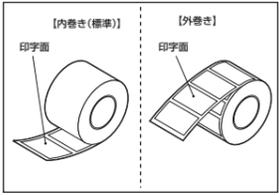
- **トップカバーやリボンカバーは後方へ倒すように全開にすること**
中途半端な状態にしておくとうちに閉まり、けがの原因となることがあります。
- **印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと**
やけどの原因となることがあります。
- **左右のトップカバー固定フックに手などをぶつけないこと**
けがの原因となることがあります。

お願い

- 初めて使用する用紙を取り付けるときは、システムモードの「センサー」で用紙検出センサーの感度調整を行ってください。
- プレ印刷されている用紙を取り付けるときは、スレッシュホールドの設定を行ってください。
(→ スタートアップCDROM内の取扱説明書「スレッシュホールドの設定(プリ印刷用紙)」)

補足

- 用紙には内巻きと外巻きがあり、その違いは右図のとおりです。
- 用紙には、熱転写用と熱直接発色用のラベルおよびタグがあります。(→「用紙の仕様」)
- 内径が38、40、42および76.2mm(標準)の用紙が使用可能です。

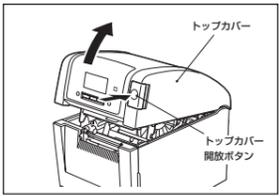


取付手順

- 1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。

補足

- 用紙およびリボンの経路図は、リボンカバーの内側に貼付されていますので参照してください。
- 改良のため予告なく部品形状の一部を変更することがあります。



12

カッター装着時の用紙取付手順

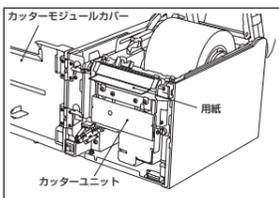
注意

- **カッターの刃に直接触れないでください。**
けがの原因となることがあります。

- 1 図のように用紙の先端をカッターユニットに挿入します。

お願い

- カッターモジュールカバーを開閉する際は、トップカバーを開けてから開閉してください。トップカバーを開けた状態でカッターモジュールカバーを開閉するとトップカバーにぶつかることがあります。また、カッターモジュールカバーが開けにくい場合は、カバー持ち手の下の方を持って開けてください。



剥離モジュール装着時の用紙取付手順

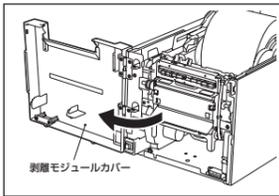
- 1 剥離モジュールカバーを開きます。

お願い

- 剥離モジュールカバーが開けにくい場合は、カバー持ち手の下の方を持って開けてください。

補足

- 剥離発行時の印字速度は6 ipsまでとなりますので、8 ipsを指定しても自動的に6 ipsで発行します。

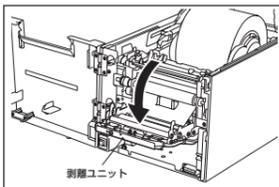
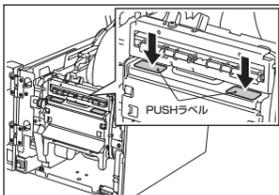


14

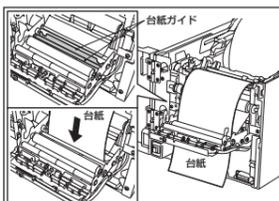
15

16

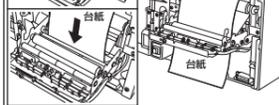
2 剥離ユニットオープンレバーのPUSHと印刷されたラベル部を押し下げ、剥離ユニットを開きます。



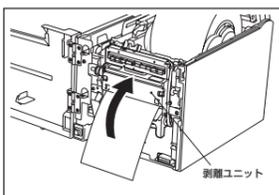
3 用紙先端から約300mm分の台紙からラベルをはがします。



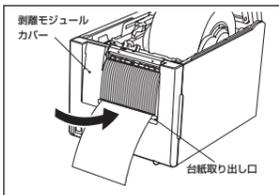
4 台紙を台紙ガイドの間に通します。



5 台紙を通したら剥離ユニットをしっかりと閉めます。



6 台紙の先端を剥離モジュールカバーの台紙取り出し口へ通し、剥離モジュールカバーを開めます。



7 トップカバーを開めます。



補足

台紙を台紙取り出し口のエッジで切った場合、台紙の種類によっては内部でちぎれて台紙がローラーに巻きつく恐れがあります。台紙取り出し口のエッジを使用せずカバーの外側で台紙を切ることをお勧めします。

用紙検出センサーの位置調整について

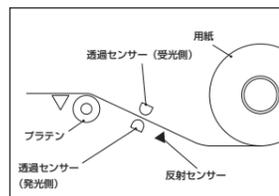
本機には用紙を正しく紙送りするため、2種類の用紙検出センサーが装備されています。用紙検出センサーの位置は、使用する用紙のタイプに合わせて調整してください。用紙検出センサーを正しい位置に調整しないと、本機は用紙を発行できず、「紙送りエラー ****」メッセージを表示してエラーとなります。

注意

- ・ トップカバーやリボンカバーは後方へ倒すように全開にすること
中途半端な状態にしておくとなしに閉まり、けがの原因となることがあります。
- ・ 印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。
- ・ 左右のトップカバー固定フックに手などをぶつけないこと
けがの原因となることがあります。

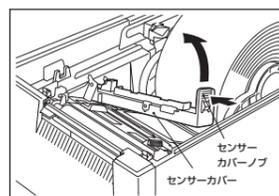
反射／透過センサーの位置関係と検出方法

- ・ 用紙検出センサーには、用紙の裏面に印刷された黒マークを検出する反射センサーと、ラベルとラベルのすき間(ギャップ)を検出する透過センサーがあります。
- ・ センサーの位置は、右側の調整ノブを左右に動かして調整します。
- ・ 透過センサーの受光側と発光側のセンサーは、常に同じ位置に合わせておきます。

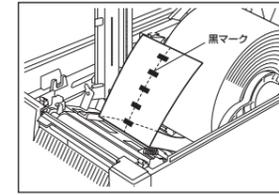


反射センサーの位置を調整する

- 1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。
- 2 センサーカバーノブをつまみ、左に押しながらかき上げてセンサーカバーを左側に全開にします。



3 用紙を約15cmほど引き出し、黒マークが上を向くように用紙を折り返します。

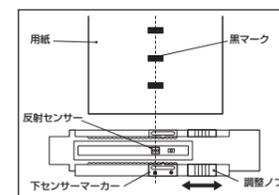


4 調整ノブを動かし、黒マークの中心線上に下センサーマーカーの■を合わせます。

5 用紙を元に戻してセンサーカバーを静かに下ろし、「カチッ」と音がするまで押して確実に閉めます。

お願い

・ 反射センサーの位置を調整した後、上下の透過センサーの位置が合っていることを確認してください。上下のセンサー位置が合っていないと、用紙の終了が検出できなくなります。

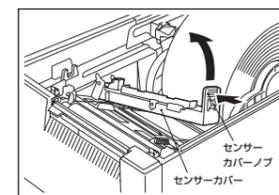


※下センサー（反射／透過センサー）は説明のため、上図に記載しています。

6 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を両手で「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。

透過センサーの位置を調整する

- 1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。
- 2 センサーカバーノブをつまみ、左に押しながらかき上げてセンサーカバーを左側に全開にします。



リボンの取り付け方(熱転写方式の場合)

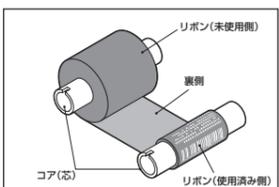
本機は、熱転写／感熱という2種類の印字方式に対応しています。熱転写方式とは、印字ヘッドの熱でリボンのインクを溶かし、用紙に定着させる印字方式です。感熱方式とは、発色剤を含んだ用紙に印字ヘッドで熱を加え、発色させる印字方式です。リボンは用紙幅に対応した、当社認定の純正品をお使いください。ここでは、本機にリボンを取り付ける手順について説明します。

注意

- ・ トップカバーやリボンカバーは後方へ倒すように全開にすること
中途半端な状態にしておくとなしに閉まり、けがの原因となることがあります。
- ・ 印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。
- ・ 左右のトップカバー固定フックに手などをぶつけないこと
けがの原因となることがあります。

お願い

- ・ 感熱方式で印字するときは、リボンを取り付けなくても構いません。リボンを取り付けて印字した場合、印字ヘッドが破損したり、印字ヘッドに溶けたリボンが付着し、印字ヘッドの交換(有償)が必要になります。
- ・ リボンには裏と表(インク面)がありますので、注意して取り付けてください。逆に取り付けて印字すると、印字できないばかりか、印字ヘッドの交換(有償)が必要になります。
- ・ 途中で使用したリボンの未使用側／使用済み側の見分け方は、右図を参照してください。新しいリボンの場合は、径の太い方が未使用側です。
- ・ リボン幅が用紙幅より狭い場合、リボンの搬送が安定せず、リボン印字が発生することがありますので用紙より幅が広いリボンをお使いください。(±5mm (片側+2.5mm)以上推奨)
- ・ 60mm幅のリボンをご使用時は、パラメータ設定のリボントルクを「低い」に設定してください。



リボン幅	対応可能な用紙幅
60mm	55mm未満
90mm	55～85mm未満
110mm	85～105mm

補足

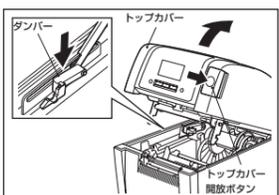
- ・ 当社認定品以外のリボンを取り付けて印字した場合、その結果に対して当社は責任を負いかねます。

取付手順

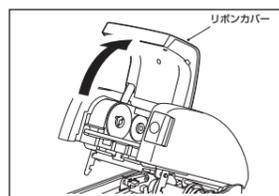
- 1 トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ約45°程開け、ダンパーの中央部を押してレールの凹部にダンパーの根元を押し込み、トップカバーをロックします。

補足

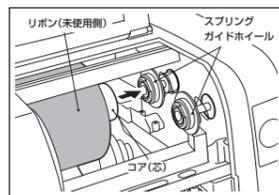
- ・ 用紙およびリボンの経路図は、リボンカバーの内側に貼付されていますので参照してください。
- ・ 改良のため予告なく部品形状の一部を変更することがあります。



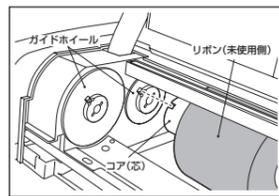
2 リボンカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。



3 未使用側(径の太い方)のリボンを、後方(下部)のガイドホイールとスプリングガイドホイールの間に取り付けます。



① 右図のように未使用側リボンの右側のコア(芯)をスプリングガイドホイールに押し当てます。

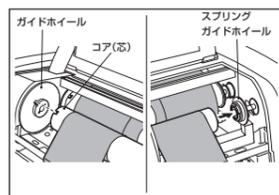


- ・ リボンは巻きが乱れやすく広がりやすいため、取り付けるときは手でしっかり持ってください。
- ・ リボンのインクが手に付着したときは、石鹸で手を洗ってください。インクには有害物質を含んでいませんので、人体には無害です。

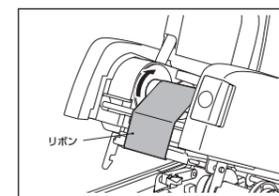
4 巻き取り側(径の細い方)も同様に、手前(上部)のガイドホイールとスプリングガイドホイールの間に取り付けます。

お願い

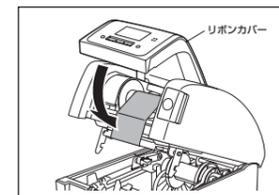
- ・ 左側のコア(芯)をガイドホイールにセットし、ガイドホイールの凸部とコアの凹部をしっかりとみ合わせてください。



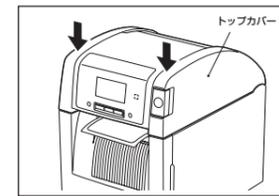
5 巻き取り側のリボンを矢印の方向へ回り、リボンのタルミヤジフを取り除きます。



6 リボンカバーを静かに下ろし、「カチッ」と音がするまで確実に閉めます。



7 トップカバーを少し持ち上げてロックを解除してから静かに下ろし、トップカバー前部を両手で「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



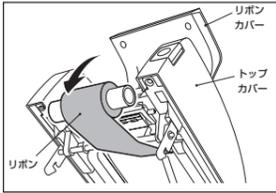
お願い

- ・ リボンのセット直後、トップカバーを開けてそのまま印字を開始するとリボンにシワが発生して印字品質が損なわれる可能性があります。このような場合は、トップカバーを開けた後、[FEED]キーを押して10～20cm程度用紙を搬送してから印字を開始してください。用紙とリボンの搬送が安定してリボンのシワの発生を抑えることができます。
- ・ 使用済みのリボンを廃棄するときは、各自治体の条例等に従って処分してください。法律上は「廃プラスチック」に該当します。ただし、コア(芯)部は段ボールですので、分別処分してください。

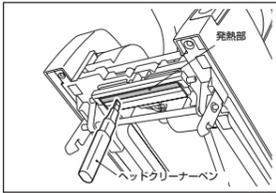
日常のお手入れ

印字ヘッド／プラテンを清掃する

- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。
- リボンがセットされているときは、リボンを取り外します。



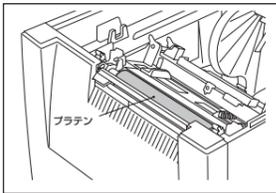
- 印字ヘッドの発熱部(網掛け部分)の汚れは、付属のヘッドクリーナーベンで拭き取ります。



補足

- ヘッドクリーナーベンはお買い上げの販売店へご注文ください。

- プラテンの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。

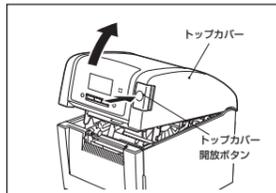


お願い

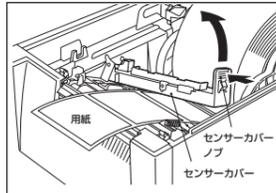
- 印字ヘッドやプラテンを鋭利なもので傷つけないでください。印字不良や故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。印字不良や故障の原因となります。
- 印字ヘッドの発熱部に直接手を触れないでください。静電気により、印字ヘッドが破損することがあります。

用紙検出センサーを清掃する

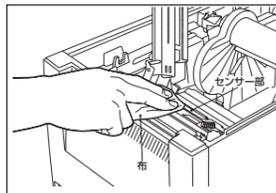
- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。



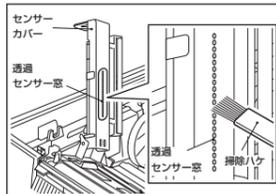
- 用紙がセットされているときは、センサーカバーノブをつまみ、左に押しながら引き上げてセンサーカバーを左側に全開にし、用紙を清掃の邪魔にならない所へ移動します。



- 下側の反射センサーおよび透過センサー上の紙粉やホコリは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。



- センサーカバー裏側の透過センサー窓のホコリは、市販の清掃ハケで取り除きます。

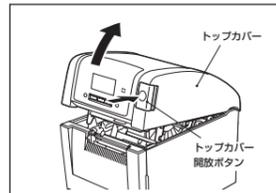


お願い

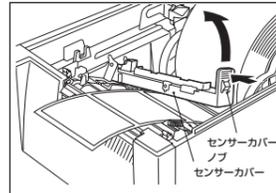
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。センサー不良や故障の原因となります。

用紙収納部を清掃する

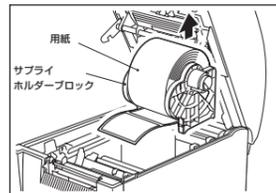
- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- トップカバー開放ボタンを押し、トップカバーを後方へ静かに倒すように全開にします。



- 用紙がセットされているときは、センサーカバーノブをつまみ、左に押しながら引き上げてセンサーカバーを左側に全開にします。



- サプライホルダーブロックごと用紙を取り出します。



- 用紙収納部の紙粉やホコリは、少量の水を含ませた柔らかい布で拭き取ります。

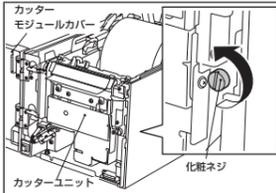


カッター (オプション) を清掃する

注意

- カッターの刃に直接触れないでください。けがの原因となることがあります。

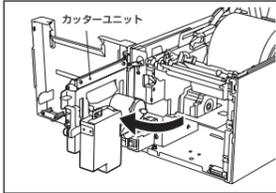
- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- カッターモジュールカバーを開き、カッターユニットの化粧ネジを緩めます。



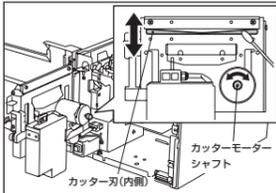
お願い

- カッターモジュールカバーが開けにくい場合は、カバー持ち手の下の方を持って開けてください。

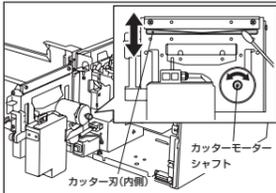
- カッターユニットを開きます。もし用紙が詰まっていたら取り除きます。



- 手でカッターモーターシャフトを回すとカッターの刃が上下に動きます。清掃できる位置までカッターの刃を動かしてください。

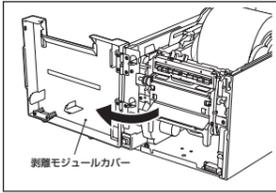


- カッターの刃の内側と外側を、無水エタノールで湿らせた柔らかい布または綿棒で拭きます。



剥離モジュール(オプション)を清掃する

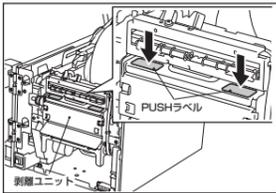
- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 剥離モジュールカバーを開きます。



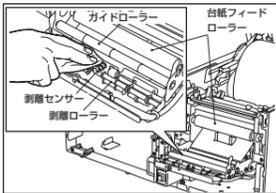
お願い

- 剥離モジュールカバーが開けにくい場合は、カバー持ち手の下の方を持って開けてください。

- 剥離ユニットオープンレバーのPUSHラベル部分を押し下げて剥離ユニットを開きます。もし用紙が詰まっていたら取り除きます。



- 台紙フィードローラー、ガイドローラー、剥離ローラーを無水エタノールで湿らせた柔らかい布で拭きます。また、剥離センサーに紙粉やホコリが付いている場合、市販のOAエアークリーナーで取り除きます。



仕様

本機の仕様

項目	仕様
型式	BA420T-TS12-S
定格電源	交流100V±10% 50/60Hz
消費電力	印字中:130W (印字率15%斜線時) 待機中:0.5W (パワーセーブ時) 10W以下(印字待機時)
使用温度範囲	転写:5~40℃ 発色:0~40℃
使用湿度範囲	25~85% (ただし、結露しないこと)
印字方式	熱転写方式(リボン転写) / 感熱方式(直接発色)
印字ヘッド密度	11.8ドット/mm (300dpi)
印字速度 *1	50.8mm(2インチ) / 秒 *2、101.6mm(4インチ) / 秒、152.4mm(6インチ) / 秒、203.2mm(8インチ) / 秒 ...切換式 *3
発行モード	連続発行 / 剥離発行(オプション) / カット発行(オプション)
表示方式	128 x 64 ドットグラフィックLCD 最大21桁 x 5行
表示文字	英字、漢字、数字、カタカナ、記号
有効印字幅	最大105.7mm±0.1mm
印字可能文字種	英/数/カナ タイムスローマン、ヘルベチカ、プレゼンテーション、レターゴシック、プレステージエリート、クーリエ、OCR-A、OCR-B、ゴシック725ブラック 漢字 16x16、24x24、32x32、48x48 (角ゴシック) 24x24、32x32 (明朝) 外字 16x16、24x24、32x32、48x48*外...各1種、フリーサイズ...40種 その他 アウトラインフォント(英数字)...5種、画格フォント...3種、 NotoSansFont
印字可能バーコード	JAN8/13、EAN8/13、UPC-A/E、Interleaved 2 of 5、NW-7、CODE39/93/128、EAN128、MSI、インダストリアル2of5、RM4SCC、KIX code、GS1 Databar、カスターバーコード、POSTNET、MATRIX 2 of 5 for NEC
印字可能二次元コード	QRコード、Micro QRコード、セキュリティQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、MicroPDF417、CPコード、Aztecコード
インターフェース	USBポート×1(2.0準拠/ハイスピード対応) LANポート×1(10BASE-T/100BASE-TX準拠) Bluetooth×1(V2.1/MF対応) USBホスト×1(USB V2.0準拠/ハイスピード対応) NFC (ペアリング用途のみ) 無線LAN(オプション)×1(IEEE802.11a/b/g/n準拠) RS-232Cインターフェース(オプション)×1 セントロニクスインターフェース(オプション)×1 拡張I/Oポート(オプション)×1
外形寸法	238mm(幅) x 339mm(奥行) x 332mm(高さ)
質量	約12kg(用紙・リボン除く)

- *1: 剥離発行時の印字速度は152.4mm(6インチ)/秒までとなります。
- *2: 熱転写発行時の印字速度は76.2mm(3インチ)/秒となります。
- *3: ご使用のサプライの組み合わせにより印刷できる速度に制限があります。

補足

- 本機の仕様は改良のため、将来予告無しに変更することがあります。

用紙の仕様

用紙にはリボン転写タイプと熱直接発色タイプのラベルとタグがあります。用紙は当社認定の純正品をご使用ください。

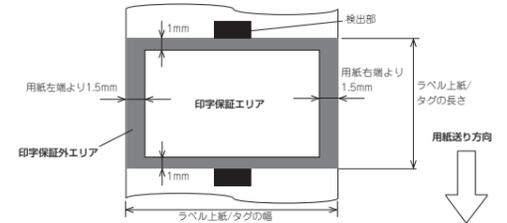
用紙のご用命および用紙の作成につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。(単位:mm)

項目	発行モード			
		連続発行	剥離発行	カット発行
用紙長(ピッチ)	発色	10.0~1500.0	19.0~1500.0	19.0~1500.0
	転写	15.0~1500.0		
ラベル長	発色	8.0~1498.0	17.0~1498.0	16.0~1497.0
	転写	13.0~1498.0		
タグ幅	発色	25.0~118.0		
	転写	25.0~105.0		
ラベル台紙幅	発色	25.0~118.0		
	転写	25.0~114.0		
ラベル幅	発色	22.0~115.0		
	転写	22.0~105.0		
ギャップ長		2.0~20.0	2.0~5.0	3.0~20.0
黒マーク長		2.0~10.0		
最大有効印字幅		105.7±0.2		
有効印字長	ラベル	発色	6.0~1496.0	14.0~1495.0
		転写	11.0~1496.0	
	タグ紙	発色	8.0~1498.0	17.0~1497.0
		転写	13.0~1498.0	
スローアップ・ダウン区間における非印字領域	スローアップ	1.0		
	スローダウン	1.0		
用紙厚さ	発色	0.08~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	0.13~0.17*	0.08~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)
		0.10~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	0.13~0.17*	0.10~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)
転写	0.08~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	0.13~0.17*	0.08~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	
	0.10~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	0.13~0.17*	0.10~0.17* (幅25~50mmのタグ紙の場合、0.263mmまでとする)	
最大ロール径		φ150		
紙管の内径		φ38、40、42、76.2±0.3		
巻き方向		内巻き(標準) / 外巻き		

*: 認定用紙に限りです。

補足

下図グレーのエリアでの印字は品質保証外となります。グレーのエリアに印字するとリボンのシワが発生し、印字保証エリアの印字品質が損なわれる場合があります。



RFIDタグ紙の仕様

RFIDタグ紙の仕様は、基本的に印刷用紙の仕様に基づいています。異なる項目を下記表に記載します。用紙のご用命はお買い上げの販売店にお問い合わせください。

項目	発行モード			
		連続発行	剥離発行	カット発行
用紙長(ピッチ)	自動正転待機なし	23.0~999.0	35.0~999.0*	45.0~999.0
	自動正転待機あり	39.0~999.0		
ラベル長	自動正転待機なし	20.0~996.0	32.0~996.0*	42.0~996.0
	自動正転待機あり	36.0~996.0		
ギャップ長		3.0~5.0	3.0~20.0	
黒マーク長		3.0~10.0		
有効印字長	ラベル	自動正転待機なし	18.0~994.0	30.0~994.0*
		自動正転待機あり	34.0~994.0	
	タグ紙	自動正転待機なし	20.0~996.0	42.0~996.0
		自動正転待機あり	36.0~996.0	
用紙厚さ	インレイ除く		0.10~0.17	0.10~0.17
	インレイ含む		0.10~0.25	0.10~0.25
紙管の内径		φ76.2±0.3		
巻き方向		外巻き		
印字方式		熱転写方式のみ		

- *: パラメータ設定のプレ処理処理が「する」に設定されている場合、最小値が6mm大きくなります。
- 用紙長(ピッチ):41.0~999.0
- ラベル長:38.0~996.0
- 有効印字長:36.0~994.0